

海津 亜希子 先生 (国立特別支援教育総合研究所)



「学びを楽しみ、学びから自信を得る」ことの大切さを熱く伝えていただいた講座でした。

多層指導モデルMIMでは、通常の学級において、異なる学力層の子どものニーズに対応した指導・支援を提供し、子どもが学習につまずく前やつまずきが深刻化する前に指導・支援をすることを目指しています。特にすべての学びに影響し、多くの子どもがつまずく領域として、特殊音節の指導に焦点を当ててお話いただきました。

特殊音節は1対1で文字と音に対応しないため、頭の中で音の操作が難しい子どもにとって

は習得が難しく、語を正確に素早く読めないと文章の読解力にも影響すると考えられています。9歳までに適切な教育が受けられなかった子どもは、約70%が生涯読みのつまずきを持つという報告もあるようで、特殊音節の読みという根本的なところでの支援の必要性が分かります。

つまずきを早期に把握するため、簡易なアセスメントを紹介していただきました。定期的を実施することで子どもの指導に対する伸びを測ったり、指導の在り方を検討したりすることができます。講座では、実際にアセスメントを体験しました。1分ほどで語の正確な認知や語のまとまりの認知の力を楽しみながら測ることができ、感嘆の声が上がりました。

特殊音節の指導法として、文字と音の結びつきを理解するための音韻の視覚化(音の特徴を視覚化したマーク)と動作化(音の特徴を表した動作)も紹介していただきました。音の特徴のしっかりとした認識が、表記にもつながります。講座では、実際の指導も体験しました。手をたたきながら声に出して特殊音節の入った単語を読むゲーム性のある課題に、先生方からは笑みがこぼれ、会場は温かい雰囲気になりました。また実際の授業をビデオで視聴したり、様々な指導メニューを教えていただいたりして、実践を見据えることができました。

指導を様々な学力層の子どもに届けるため、指導は3つのステージに分けられています。1stステージはすべての子どもに対する通常の学級での全体指導、2ndステージは1stステージで伸びが十分でない子どもに対する通常の学級内での補足的な指導、3rdステージは1stステージや2ndステージで伸びが十分でない子どもに対する個に特化した指導です。特に2stステージや3rdステージで校内支援体制を整えることの大切さが話されました。

たとえ初めはつまずいたとしても、その子どもに合った指導・支援方法で、できるようになった経験や頑張りを正當に評価された経験を通じて、肯定的な自己像を築き上げていくことが重要…いただいた言葉は参加された先生方の胸に強く響いたことと思います。